



高野みよのさん・政見さん(八木沢)

## 「までい」の思い出

— 生活に息づいていた「までい」 —

思い出深い戦時中、わが家まだ電気が通る前でランプの時代でした。灯油は配給制で草野まで歩いて灯油を買いにいったものです。当然貴重な灯油でしたから、夜は早めに寝るし無駄使いはせず「までい」に使います。それでも足りない時は松脂をとってきてそれを燃料にしていました。いまは電気のない生活なんて想像できませんね。

ほかには、子供の着物は知り合いなどからのお古。大事にしてぼろぼろになるまで使いました。洗濯もせっけんまつやにと洗濯板ですから、時間がかかります。今のように洗濯機に入れたら洗い終わるまで他の仕事をというわけにもいきませんから、畑仕事などが洗濯より優先されて、洗濯は10日に1回という時もありました。白いものなどは汚れが落ちなくなっていたりしましたね(笑)。

不便なので家事や仕事をはじめると時間もかかるし、その仕事かかりっきりでしたが、人間ヒマだとあまりいいことはありませんので、それでよかったのかなと最近思っています。

## ふるさとの学校建築に寄付 学び舎に恩返し

10月1日、村出身で現在は福島市にお住まいの手渡光男さんが役場を訪れ、村に飯樋小学校建設資金として10万円を寄付していただきました。手渡さんは飯樋前田の出身。自分も学んだ飯樋小学校の校舎が新築されると聞き、何かの役に立てればとお金を寄付したとのこと。

福島市には飯館村出身の福島市在住者で構成する「飯館郷友会」という会があり、手渡さんはそのメンバー。会では定期的に集会をもつなどし、飯館出身者同士の交流を深めています。今回の寄付金を村では手渡さんの希望に沿えるよう有効に使うことにしています。



▲寄付金を渡す手渡さん(右)